

ダイジェスト版

第4次千早赤阪村総合計画

みんなが集う みんなで育む
みんなに優しい みんなを結ぶ
ちはやあかさか



第4次総合計画の概要

◆計画策定の趣旨

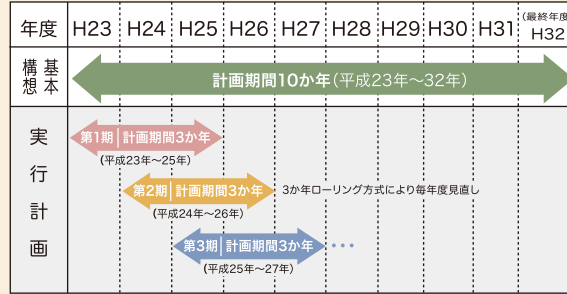
人口減少と少子高齢化の進展、環境問題への取り組みなど、社会経済情勢が大きく変化する中、長期的な視野に立って、効率的かつ効果的なむらづくり、魅力あるむらづくりを進める指針として第4次千早赤阪村総合計画を策定しました。

◆計画の期間

- 基本構想は、平成23年度(2011年度)を初年度とし、10年後の平成32年度(2020年度)を目標年次とします。
- 実行計画は、平成23年度(2011年度)を初年度とし、計画期間は3か年とします。また、毎年度ローリング方式*により見直します。

◆計画の構成

- 総合計画は目的と手段を明確にするために、「基本構想」と「実行計画」により構成します。
- 基本構想は、むらづくりの将来像と基本方向を示します。
- 実行計画は、基本構想に基づき、諸施策を体系的に示します。



※ローリング方式/長期計画と実績の乖離(かいり)を防ぐため、施策・事業の見直しや部分的な修正を転がるように定期的に行っていく手法。

むらづくりの考え方

- 近年、地方自治体を取り巻く社会経済情勢は、本格的な人口減少や少子高齢化の進展、地方分権の進展など、大きな転換期に直面しています。
- 特に地方分権の進展により、地方自治体や地域社会は「自己決定・自己責任」に基づき独自の活動や施策ができるようになり、自治体間で様々な取り組みが展開されています。このことは、地域の実情に応じた活力ある地域社会を住民と行政が自主的に決め、実施するということであり、まさに地方自治の基本とも言えます。
- これからの千早赤阪村のむらづくりにおいては、村民と行政の一体感の醸成と地域個性の創出を図りながら、村民の意向を十分反映した村政運営をめざします。
- 村民と行政によるむらづくりを進めるため、次の姿勢を基調としてむらづくりに取り組みます。

むらづくりの 姿勢

村民等と行政の役割の明確化による協働型社会の構築

行財政改革の推進

開かれた行政経営

広域行政の推進

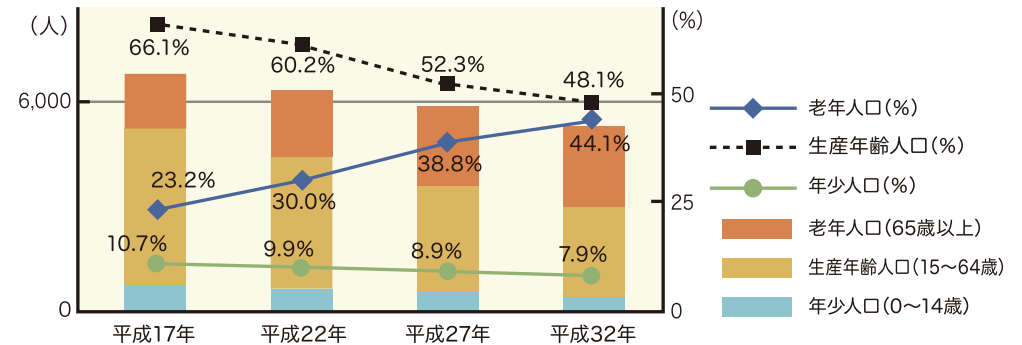


◆将来推計(人口推計)

計画期間内においては、総合的施策を展開するとともに、村外からの人口流入および定住化を促進し、目標年次である平成32年度においても、現状の人口規模である約6,000人を維持することを目標とし、社会経済情勢などの動きに応じ、柔軟に

対応していくものとします。また、一方で定住人口の減少が予想される中、「むらの活力」の維持・充実を図るため、それらを補完するものとして交流人口の増加をめざし、村域の活性化を図ります。

■人口推計(住民基本台帳・外国人登録を含む)



◆都市構造

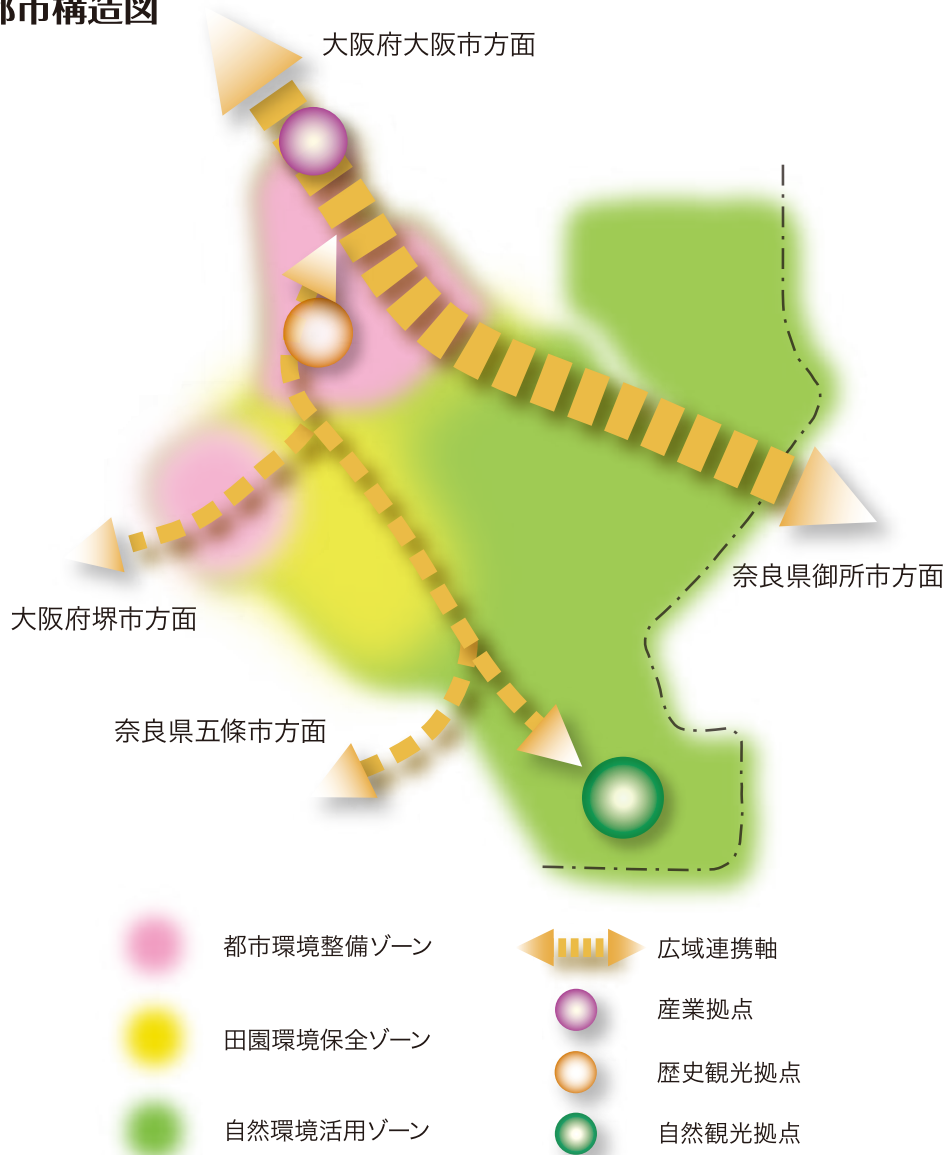
本村は、金剛山をはじめとした緑豊かな自然地域、農山村の田園地域、住宅が立地する住宅地域、工業などの産業が集積する地域、歴史・文化が集積する地域など、多種多様な性質をもつ地域が混在し、むらの姿を形成しています。

第4次総合計画においては、これまでの本村の特性を継承しながら、それぞれの地域が連携した新しいむらの姿を実現していくため、3つの方針を設定し、今後の全村域の一体的・総合的な発展をめざします。

◆ 都市構造の3つの方針

1. 「土地利用」の方針: 基本的な土地利用の方向を示したもの
2. 「拠点形成」の方針: 都市構造としての都市拠点や地域拠点などの方向性を示したもの
3. 「軸形成」の方針: 2.の拠点を有機的に結びつける構造を示したもの

都市構造図



むらの将来像

わたしたちの村を取り巻く環境は大きく変化しています。

少子・高齢化が進み、財政状況も厳しい中で、今まさに将来の村のあり方が問われています。

しかし、村には、楠木正成や金剛山をはじめとした豊かで誇れる歴史、自然があります。また、村民みんなが参加する祭りなども多く、さらに子育てや教育にも目が行き届き、地域のコミュニティが息づいています。

これからのむらづくりは、このかけがえのない村を大切に守り、良いところを生かし、磨き、そして村民や村外の人との絆を結び、「自信と誇り」を持って村民と行政が共に手を携え、笑顔あふれるむらづくりを実現していきます。

ずっと“ちはやあかさか”に住み続けたい、いつかは“ちはやあかさか”に住みたい、次世代へ引き継ぐ、夢と希望があふれるそんな村をつくってきたい…

そんな想いをこめて、わたしたちは、こんなむらづくりをめざします。

むらの 将来像

「^{つど}みんなが集う ^{はぐく}みんなで育む ^{やさ}みんなに優しい ^{むす}みんなを結ぶ—ちはやあかさか」
～夢を持って子育てができる ^{ここせ}金剛山のむら～

みんなが集う —観光力—

- 豊かな自然・歴史資源を生かし、多くの人が村を訪れる活力あるむらづくりをめざします。

みんなで育む —教育力—

- むらづくりは人づくりを基本に、次世代を担う子どもたちの育成と地域や村民みんなが育つむらづくりをめざします。

みんなに優しい —環境力—

- 自然を保全し、地球環境にやさしいむらづくりをめざします。

みんなを結ぶ —協働力—

- 一人ひとりが、互いに尊重し合い、地域社会の基礎となる人と人との信頼の絆を結び、真の豊かさを求めるむらづくりをめざします。

むらづくりの基本柱

むらづくりの基本柱は、「これからのむらづくりの姿勢」を踏まえながら、むらの将来像を実現するためのテーマ別の基本方向を示し、次の6つの基本柱に基づき、むらづくりを進めます。

むらづくりの基本柱

1

安全・安心・環境

豊かな自然と共生し
やすらぎのある暮らしを育む むらづくり



地震や風水害から身を守り、安全で安心して村で暮らせることが村民の願いです。そのためには、日頃から、地域の村民が互いに声をかけ合い、協力し合うことによって、安全で安心して暮らすことのできるむらづくりをめざします。本村は、村域の約90%を山林や農地が占めるなど豊かな自然環境を有しています。これらの恵まれた環境と共生し、次世代に継承できるよう保全・活用を図り、自然環境と人に優しいむらづくりをめざします。

むらづくりの基本柱

2

健康・福祉

心と体の健康をみんなで育む むらづくり



自分の健康は自分自身で守り育てていくことが基本ですが、一人ひとりでは取り組みにくい点もあります。そのため、家庭や地域のつながり、健康づくりにもよい自然環境を生かし、みんなが健やかに暮らすことができるむらづくりをめざします。地域のつながりを大切にし、保健、医療および福祉の連携を図り、誰もがいきいきと社会参加することができる心やさしいむらづくりをめざします。

むらづくりの基本柱

3

教育・歴史・伝統

歴史・文化、人が育む むらづくり



むらづくりの基本は人づくりであり、人は本村の宝であることを認識し、村民がお互いに育ち育て、一人ひとりが自分らしい生き方を選択できる機会に恵まれたむらづくりをめざします。本村は古来より、豊かで独特な歴史・文化を育んできました。私たちはこれらを先人から受け継ぎ、未来へと継承していくために、一人ひとりが、誇りを持って本村の歴史・文化を学び、地域の活性化のために活用していきます。義務教育の目的を踏まえ、「確かな学力」を確立するとともに「豊かな心」「健やかな体」を育み「生きる力」を育成します。また本村で育ったことを誇りに思い、愛着を持って「村を語る」ことのできる担い手が、様々な形で本村の発展に寄与することができるむらづくりをめざします。

4

観光・産業・地域振興

地域資源を生かし村民の元気を育む むらづくり



地域産業の振興には、地域の活性化や若者の流出を防ぐことが不可欠ですが、農林業を取り巻く状況は厳しく、高齢化や後継者不足などの深刻な課題を抱えています。また、本村の観光産業においても、恵まれた資源を持ちながら十分に活用されていない状況にあります。観光地づくりには、村民一人ひとりが理解を深め、誇りをもって積極的にアピールするなど、本村を訪れる人々に対する村民のホスピタリティ(おもてなしの心)の醸成が大切です。今後は、金剛山や楠木正成ゆかりの史跡をはじめとした知名度の高い自然・歴史資源を核としながら、農林業や観光など産業間の連携による相乗効果の創出を進め、知恵を絞った産業づくりを通して村民の元気を生み出すむらづくりをめざします。

5

建設・交通

村民の快適な暮らしを育む むらづくり



道路は、日常生活や経済活動の基盤であるとともに、災害時には避難路や救援物資の輸送路等の重要な役割を果たすことから、各地域を安全かつスムーズに結ぶことにより、移動しやすい環境づくりを進めます。本村では最低限の利便性を確保しつつも、自然に恵まれた環境の中で心やすらぐ暮らしを育むことができるむらづくりをめざします。

6

協働・行政経営

村民と行政がともに育む むらづくり



地方分権社会において、限られた財源の中、いかにして地域にふさわしい住民サービスを提供するのかが求められています。住民サービスを行政だけで提供するという考え方から村民やNPO団体、企業などと協働で担うことへと転換し、みんなで支えるむらづくりをめざします。また、一人ひとりの人権が尊重され、すべての村民が自らの能力や個性を発揮できる機会を持ち、いきいきと暮らすことのできるむらづくりをめざします。

重点施策の考え方

1 最重点目標

先に掲げたむらづくりの基本柱に基づく総合的なむらづくりを推進する中で、本格的な人口減少への対応とそれらを補完するための交流人口の増加をめざすことにより、「むらの活力」の維持・充実や地域の活性化を図ります。

また、これまでの「成長型(量的)むらづくり」から「成熟型(質的)むらづくり」への転換を図り、“ずっと住み続けたい、いつかは住みたい”と思える魅力あるむらづくりをめざします。

最重点
目標

『人口の維持』『地域の活性化』

2 重点施策の推進

- 限られた経営資源の中で最重点目標を達成するためには、施策の垣根を越え、連携し、一つのまとまりのある事業を先導的・優先的に推進していくことが必要であり、そのため「重点施策」として位置づけ事業展開を進めます。
- 「重点施策」は、実行計画を基本としつつ、社会経済情勢の変化に応じ、施策の継続性も考慮しながら毎年度見直します。
- 「重点施策」を実行するには、実行できる推進体制を構築する必要があります。そのため、適宜必要に応じ、庁内プロジェクトチームを発足するなど、推進体制の強化を図ります。

最重点目標『人口の維持』・『地域の活性化』

重点
施策

次世代育成プロジェクト

～子育て対策～

持続的かつ発展的な繁栄を実現するため、これからの本村を担っていく子どもたちが元気に育っていく環境整備をめざします。

考えられる施策

- ◆ 幼・小・中一貫教育の推進
- ◆ 子育て支援策の充実
- ◆ 食育の推進 など

重点
施策

住みたい“むら”プロジェクト

～住環境対策～

人口減少に歯止めをかけ、誰もが住みたいと思える魅力ある生活環境の形成をめざします。

考えられる施策

- ◆ 地域活動への支援
- ◆ 雇用確保のための企業誘致
- ◆ 公共交通の検討
- ◆ 定住策の推進
- ◆ 地産地消の推進 など

重点
施策

交流人口増加プロジェクト

～活性化対策～

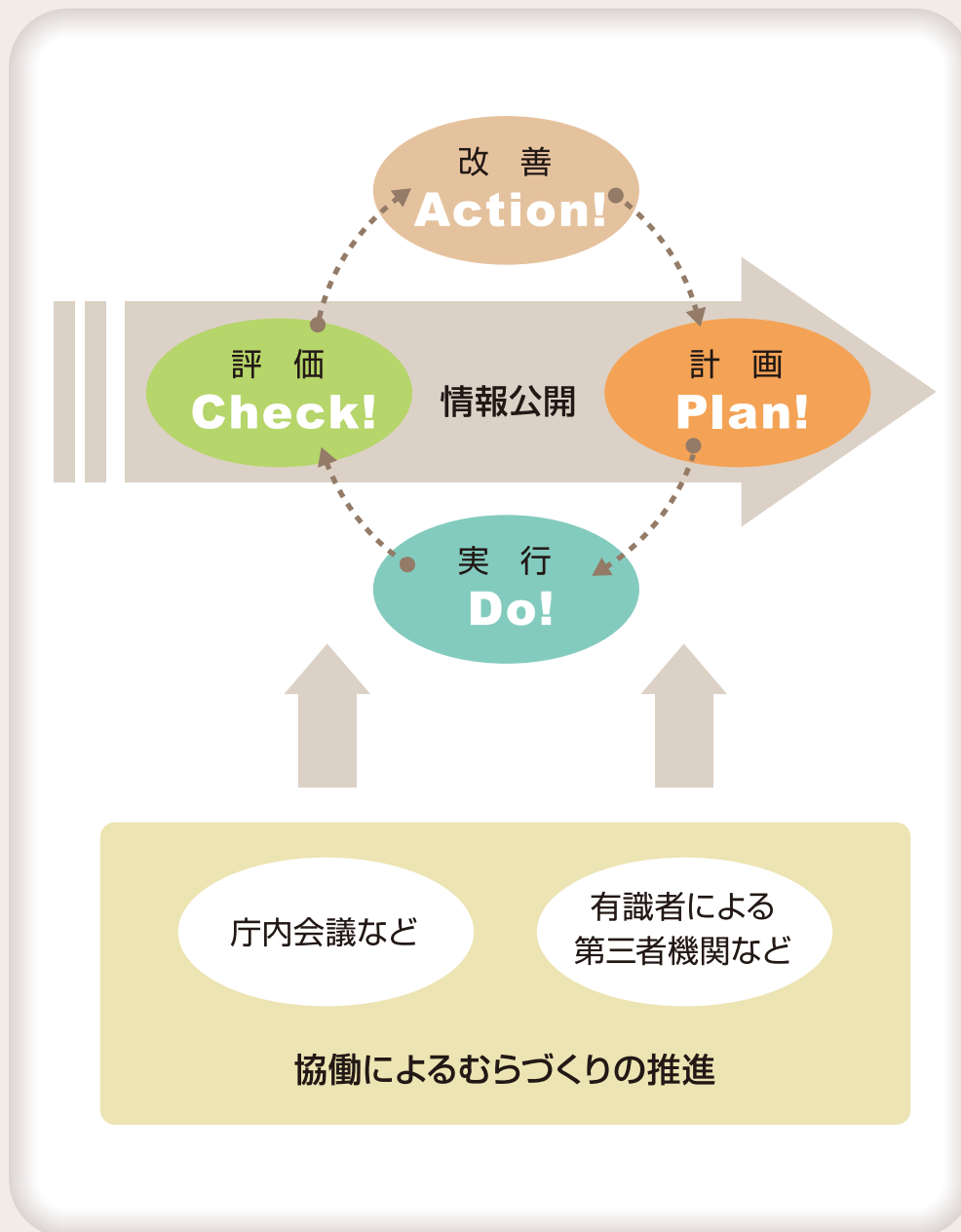
にぎわいと活力を創出するため、自然資源と歴史資源を「観光資源」として活用させ、本村の魅力を最大限に引き出し、交流人口の増加をめざします。

考えられる施策

- ◆ 農業体験による交流
- ◆ 金剛山を拠点とした観光産業の展開
- ◆ 村民大学の開講
- ◆ 大都市圏からの観光客誘致 など

これら3つの重点施策を基本とし、今後のむらづくりや社会経済情勢などの動向を踏まえ、適宜事業の見直しや新たな取り組みを検討します。

計画の進行管理(PDCAサイクル)



◆計画推進の進行管理

- 基本柱を実現していくため、協働によるまちづくりを基本としながら、情報公開の推進のもと、「PDCAサイクル」(Plan計画→Do実行→Check評価→Action改善)により各施策の進捗状況とその成果を継続的に評価し、適正な進行管理を進めます。

◆推進体制

- 各施策の実現に向け、柔軟な組織体制づくりを図ります。
- 本計画を推進するにあたっては、村による各施策・事業の推進が重要ですが、あわせて村民や事業者、行政が協働で取り組むむらづくりを着実に進めていく必要があります。
- 進行管理を第三者の視点から行うため、村民参画などによる進行管理体制を整備します。

千早赤阪村政策推進室

〒585-8501大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分180
TEL(0721)72-0081(代) FAX(0721)72-1880
<http://www.vill.chihayaakasaka.osaka.jp>

※ 総合計画は、本村のホームページにも掲載しています。